

but it is confirmed that *L. japonica* var. *musashiensis* has gametic chromosome number 31. Therefore, it may be supposed that *L. japonica* is an autotetraploid derived from var. *musashiensis* from the morphological resemblances.

References

- Kurita, S. 1960. Journ. Jap. Bot. **35**: 269-272. ———, 1961. Bot. Mag. Tokyo **74**: 395-401. Ito, H. 1949. Journ. Jap. Bot. **24**: 121-127. Mitui, K. 1965. Journ. Jap. Bot. **40**: 117-124. ———, 1966. *ibid.* **41**, 60-64, 270-276.

* * * *

日本産シダの 37 種類の染色体数を発表する。表 1 と図 (1—37) がその詳細である。これらのうちでゲジゲジシダには前に報告した二倍体四倍体のほかに三倍体も存在することがわかった。さらにホコザキベニシダ ($n=41$) やイワハリガネワラビ ($n=31$) やオオハイホラゴケ ($n=36$) は、それぞれベニシダ ($n=123$)、ハリガネワラビ ($n=62$)、ハイホラゴケ ($n=72$) の起源を示すような染色体数を持つことがわかった。

○**団地サイズの台紙とカバー** (伊藤洋) Hiroshi ITO: Economical size herbarium paper

昔ピースの贈答用 10 個入りというのがあって、5 個ずつ並んで 2 列、平らな箱にすきまなく収まっていた。その中から 1 個抜き取り残りを 3 個ずつ 3 列に並べておくといういたずらがあった。ところがその結果は、縦方向ではほとんど同じく、横方向でも 4 本のすきまを合わせて 1cm ちょっとだから、気づかれずにすむことも多かった。さて最近ある博物館で模造紙八つ切りの標本台紙を注文したところ、納品された紙が何となくすたらずのようにみえたので、計ってみると九つ切り、つまり 3×3 であることがわかった。8 枚のところを 9 枚とって一もうけしようと思った紙屋はとんだ寸法ちがいでおしゃかを出してしまったが、こちらは意外なことに気がついた。すなわちこの九つ切りのすずまりの台紙 (団地サイズと呼ぶことにしよう) を使用するとカバー (属や科ごとに何枚かの標本をはさんで整理する大きな紙) が非常に経済的だということである。カバーは台紙より一まわり大きくなければならないので、普通の八つ切りやそれより大きい新聞紙四つ折り大 (東大などで使っているもの) の台紙の場合ではカバーは全紙から 2 個しかとれない (むだな切り落としがたくさん出る) が、団地サイズの台紙だと全紙からむだなくカバーが 4 個とれる。つまり半額の値段になる。この調子で標本戸だななども万事安上がりというわけで、小規模なハーバリウムには適しているのではないかなと思う。なお台紙の寸法は八つ切り 275mm×395mm、団地サイズ 263mm×366mm で、そんなに小さすぎないようにも思えない。

(東京教育大学理学部植物学教室)